

Kamenori College 2022 Summer 報告

1. 目的

将来グローバルでの活躍を目指す大学生を対象に、国際交流の機会において、存在感を発揮し、自己主張可能な人材として成長するための、マインドセットとスキルの醸成を目的とする。

2. テーマ

Be Active and Enjoy!

3. プログラム構成・実施期間

事前プログラム *全てオンラインで実施

2022年7月23日(土) **オリエンテーション**

2022年7月29日(金)、8月5日(金)、19日(金)、26日(金) **英語研修**

2022年7月下旬～8月下旬 **チームディスカッション**

メインプログラム

2022年8月30日(火)～9月2日(金) **合宿プログラム**

	8/30(Tue)	8/31(Wed)	9/1(Thu)	9/2(Fri)	
AM		Daily Orientation	Daily Orientation	Daily Orientation	
		Presentation Skills	Presentation Skills	Final Presentation	
		Keynote	Career and Life Work		
PM	Opening Ice Breaking Workshop Guidance Check-in & Dinner Team Workshop	Lunch	Lunch	Lunch	
		How Japan should understand Populism and Leadership	Life Purpose & Values	Closing	
		Understanding your personality	Team Workshop & Review		
		Dinner			Dinner
		Team Workshop	Team Workshop		Team Workshop

4. 修了生

- ・ 日本人大学生 14 名
- ・ 海外から参加の大学生 3 名（インドネシア、フィリピン、マレーシア）

5. 主な講師陣

- ・ 山本 智巳 Global View Japan 代表、元国際基督教大学ゼネラルマネージャー、元日本 IBM 執行役員
- ・ Brent Conkle (株)ビジネスアクロスカルチャーズ代表取締役、エグゼクティブコーチ
- ・ Stephen R. Nagy 国際基督教大学上級准教授（国際関係論専攻）
- ・ 堀江 徹 (株)堀江コンサルティング代表取締役社長、グローバルコンサルタント
- ・ 藤樫 亮二 (株)プロジェクトアドベンチャー ジャパン ファシリテーター
- ・ 今北 一成 異文化コミュニケーションアドバイザー（Tricultural Communication Advisor）
- ・ 小林 正典 笹川平和財団海洋政策研究所主任研究員

他

6. 報告

Kamenori College 2022 Summer（以下、KC）はオンラインの事前プログラムと合宿形式のメインプログラムのハイブリッド構成で実施した。

1. 事前プログラム

(1)オリエンテーション

KC のキックオフとなるオリエンテーションを Zoom で行った。コロナ禍以降、オンラインオリエンテーションを行うことで、国内在住の日本人学生と東南アジアの大学生が事前に顔合わせをできる機会を持つことができた。プログラムディレクターの山本氏から全体ガイダンス、テーマの再確認があり、プログラム中は「Speak out!」「Try.」「Don't worry about failure.」をルールに、失敗を恐れず自分の意見を言うようにとの励ましがあつた。

その後、ブレイクアウトルームを利用し、自己紹介とフリートークで参加者たちはお互いを知ることができた。最後に、メインプログラムで行う Team Project の説明とチーム分けを行った。

(2)英語研修

メインプログラムに備え、Kamenori College の英語講師によるグループレッスンを計 4 回 Zoom で行った。3 グループに分かれての少人数制で、英語でアウトプットができるよう 1 回 1 時間、訓練をした。

(3)チームディスカッション

各チームは、メインプログラムまでの 1 ヶ月間に、いつ、どれくらいの頻度でディスカッションを重ねるか、オリエンテーション時に相談し合った。海外参加者もいるので時差も考慮しながら互いのスケジュールを確認し、週に 1 回程度のディスカッションをし、メインプログラムに臨んだ。

2. メインプログラム

神奈川県葉山町にある、「レクターレ葉山 湘南国際村」で実施した。様々なファシリテーターがリードする、多彩なセッションによる受講生参画型の集合研修を行った。なお、コロナ禍以降では初めて海外から招へいた大学生も参加した。

(1)1 日目

開会式後、早速講師の藤樫亮二氏によるアイスブレイクを行った。1 ヶ月越しにようやく会うことができた参加者たちは嬉しそうながらも、まだ少し緊張している様子だったが、アイスブレイクでは、文字通り緊張もほぐれマスク越しでも笑顔が伝わってきた。その後、改めて山本氏より Team Project の説明とそのため从今天から毎晩行う Team Workshop について説明を行った。夕食を終えた後、参加者たちは小会議室に分かれ、最終日の発表に向けて準備を始めた。山本氏と、英語研修の講師を務めた今北氏にも加わってもらい、参加者たちは二人の指導・助言を受けた。



プログラムディレクター山本智巳氏



会場の様子



アイスブレイクの様子



(2)2 日目

最初のセッションは山本氏による「Presentation Skill」。アイコンタクトやジェスチャーなどプレゼンテーションに必要なスキル、また、プレゼンテーションの構成や、それぞれの場面で役立つ

フレーズなど細かに説明され、参加者たちも自身のプレゼンテーションに活かせるよう熱心に耳を傾けていた。

続いて、ゲストスピーカーである小林氏から「Pioneering sustainability in a diverse and uncertain world」というタイトルで講義があった。小林氏は KC のご登壇直前にアフリカ開発会議(TICAD)でチュニジアに滞在されていた。日本だけでなく世界共通の課題である気候変動や特に海洋汚染について、たくさんの資料やデータ、具体例を用いて説明があった。参加者の多くが自身の専攻分野とは異なるテーマだったが、海洋問題は、海を介し他国と繋がっていることから、世界規模で取り組む課題であることや、そのために他者とのコラボレーションや必要なことなどを学んだ。

次に、ナギ准教授は「How Japan should understand Populism and Leadership」と題してセッションを行った。グローバル社会の中の日本について政治的、文化的、また消費社会やポピュリズムといった観点で参加者たちと議論を交わし、ナギ准教授も参加者の間を周りながら、積極的に参加者からの意見を引き出していた。「大学生たちはオンライン授業に飽きてしまっている」と、大学現場を知る彼らしいセッションとなった。

ブレント氏からは「Understanding MBTI and Your Personality」のセッションで、パーソナリティとキャリアにおけるその重要性についての講義があった。事前課題として参加者はいくつかの質問に答える Personality Assessment を行っていて、その結果によってどのような個性があるのかセッションで説明を受けた。結果が自分にあてはまっているかどうかだけでなく、自己分析をすることの重要性も参加者たちは学んでいた。

(3)3 日目

メインプログラムも折り返し地点を過ぎ、後半戦に入った。

「How to become Global leader in your career」と題したセッションを、ビジネスパーソンとしてアジアでの駐在経験も豊富な堀江氏が行った。外国人から見た日本の会社など、ビジネスパーソンならではのテーマに、参加者もとても興味を惹かれたようであった。将来を考えるための「Why・How・What」という考え方について、堀江氏自身のターニングポイントと照らし合わせながら説明があり、参加者にとってとても印象深かったようだ。彼らがこれからのキャリアを検討する上で一つの指標になるだろう。

続いて、ブレント氏の「Life Purpose and Values」のセッションを行った。参加者は Value カードという「Teamwork」や「Creativity」などが書かれたカードを手元に用意し、ブレント氏の様々な指示で自分にとっての優先順位をつけて取捨選択を行った。最後には指示通り破って捨ててしまったカードについて、このアクティビティの真意をブレント氏から伝えられると、参加者たちは目を丸くして驚いていた。自分にとって大切なものが何なのかを再認識できたようだ。

午後からは最終プレゼンの準備のラストスパート。各チームは山本氏と今北氏の前で予行演習を行い、アドバイスもらった。どのチームも厳しい指摘や大きな修正を求められたりし、翌日までに立て直せるかと不安になるチームもあったが、講師二人からのアドバイスをもとに、どのチームも夜遅くまで悩み、チームメイトと最後まで力を合わせて準備をしていた。



Team 1



Team 2



Team 3



Team 4

(4)4 日目

いよいよ最終日。最終プレゼンテーションの日を迎えた。プレゼンテーションの内容は、カンファレンス運営者として、ある会社のコンベンションをいくつかの候補都市の中から選択し、アクティビティを具体的に企画し提案するというものだった。発表ではその内容だけでなく、スキルやチームワークもバランスよく評価される。参加者の緊張はこちらにも伝わってくるほどだったが、どの参加者も堂々と聴衆にアピールしていた。架空の会社の役員となりきった審査員からもすどい質問や意見が出てくる中、必死に自分の考えを伝えようとする参加者たちの姿が印象的だった。審査員と参加者全員による評価の結果、Team 3 が最優秀賞に、Team 1 が特別賞に選ばれた。



最終プレゼンテーションの様子

最後に、参加者は振り返りシート（Reflection Sheet）に KC で学んだこと、そしてこれからの成長のために必要なアクションについて書き留めた。このシートは本プログラム終了から数ヵ月ほど経ってそれぞれの自宅に郵送された。夏休みが終わり秋学期が忙しくなる頃、参加者たちはこのメインプログラム最終日の気持ちを思い起こすことになっただろう。

閉会式では、かめのり財団理事・事務局長の西田より、無事プログラムを終えた 17 名の参加者に修了証書が送られた。

本プログラムは、オリエンテーションから一貫して英語をメインに使用してきたが、決して英語力向上を目的としたプログラムではなく、今後グローバルでの活躍を目指す大学生に必要なマインドセットとスキルの醸成が目的である。KC に参加する前と参加した後で、参加者の意識に変化があったこと、そしてその変化が今後の彼らの活躍に大きく影響することを期待したい。



閉会式での証書授与



最後は全員集合で！